

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年10月5日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 ウイルス研究所

職 名 副 所 長

氏 名 松 岡 雅 雄

事業区分	平成21年度・シンポジウム等開催助成		
事業内容	第16回東アジア医科学国際シンポジウム		
開催期間	平成21年9月12日 ~ 平成21年9月15日		
開催場所	京都大学医学部・芝蘭会館(京都市)		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	<small>(飲食・宴会経費を除いた額)</small>	3,823,254 円
	うち当財団からの助成額		1,500,000 円
	その他の資金の出所	<small>(機関や資金の名称)</small> 国立大学法人京都大学、日本製薬団体連合会、株式会社トミー精工、財団法人井上科学振興財団	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	外国人招へい旅費等	1,487,165	1,188,000
	国内招へい旅費	312,000	312,000
	会場費	596,220	
	通信運搬費	153,740	
	印刷費	624,750	
消耗品費	393,690		
その他	255,689		
合 計	3,823,254	1,500,000	

成果の概要 / 松岡雅雄

東アジア医科学国際シンポジウムはアジア太平洋国際分子生物学ネットワークの設立・展開に関わって 1994 年より毎年開催され、既に今回で 16 回の開催を数える伝統ある会議として定着している。本シンポジウムは、東アジア諸国におけるバイオサイエンスに関わる国立・公立・私立の公的研究所・組織間の連携交流による、生物学・医科学研究の国際的研究情報の交換と共同研究を促進し、さらに東アジアにおける若手研究者の育成を目指して国際的研究発表の場の提供することを目的としている。この東アジア医科学シンポジウムは、我が国を含む当該各国の関連研究所・組織が国際連携ネットワークを形成して開催運営しており、東アジアにおける日本のバイオサイエンスの橋頭堡として極めて貢献度の高いものである。また、その成果は、基礎的な生命科学研究の推進のみならず、ウイルス病や代謝・免疫疾患、様々な癌等、難治性疾患の発症メカニズムの理解と治療や予防、それらに関わる創薬など医療産業への応用や社会への貢献にも繋がるものと期待される。

会議は当初 6 月に予定されていたが、間近になって新型インフルエンザの発生・流行が報告され、国外からの参加に困難が予想されたため、9 月に延期して開催した。会議に先立ち、9 月 12 日に Welcome パーティーを行って、参加者の親睦を深めると共に、成功を祈念した。9 月 13 日は、Chromatin, DNA Repair and Gene Transcription (発表者: Chang-Woo Lee (韓国), Hae Yong Yoo (韓国), Jeong Hoon Kim (韓国)), Cancer Biology (Lu-Ping Chow (台湾), Noriko Gotoh (東大医科研), Sung-Liang Yu (台湾), Jung-Yaw Lin (台湾), Takafumi Nakamura (東大医科研)) のテーマで参加研究所のスタッフサイエンティストによる口頭発表を行うと共に、若手研究者・学生により研究概要の発表 (Young Scientist Presentation) とそれに引き続くポスター発表を行った。9 月 14 日は、初日と同様に、Virology and Host Defense (Jin-Hyun Ahn (韓国), Youichi Suzuki (京大ウイルス研), Jongsik Chun (韓国), Tatsuhiko Igarashi (京大ウイルス研)), Cell Biology and Signaling (Jian Feng Chen (中国), Fumiko Toyoshima (京大ウイルス研), Junho Lee (韓国), Gaoxiang Ge (中国), Taishin Akiyama (東大医科研), Kan Liao (中国), Ji-Sook Hahn (韓国)), Cutting Edge Science (Ryuichi ro Ishitani (東大医科研), June-Tai Wu (台湾), Lei Xia (中国), Ryoichiro Kageyama (京大ウイルス研)) のテーマでスタッフサイエンティストによる口頭発表を行った。また、この日の夜、懇親会 (Farewell Party/Awards) を行い、特に優秀なポスター発表を

行った若手研究者を表彰した。参加者は、海外から40名、国内から100名で、総参加者は140名であった。

本会議では、バイオサイエンス研究の進展著しい日本を含む東アジア諸国(韓国、中国、台湾)において先導的役割を果たしている6つの公的研究機関で研究に従事している中核的及び若手研究者が、ウイルス学、微生物学、免疫学、神経生物学など、医学や高次生体機能関連分野から、細胞生物学、生理学などを含む基礎生物学までに亘る広い研究領域を対象とした諸問題について最新の研究成果を報告し、それに関して多様な視点から活発な討論を行った。また、参加者が一堂に会して濃密な議論、情報交換を行うことが出来た。これらは、参加者各個の研究に直接的・間接的刺激を与え、各自の研究の進展に役立ただけではなく、国際的共同研究を育み、また、新たな研究の方向性を創出しうる貴重な場となったものと信じる。さらに、本会議では若手研究者に国際的な場での発表の機会と、最先端で活躍する研究者との交流の場を提供し、優秀な研究成果を表彰した。これらは、若手研究者の意欲を高め、国際的視野を持って第1線で活躍しうる研究者の育成を促すものとする。